

# 保健師 最前線

制度が変わっただけで、

住民の生活が変わったわけではありませんから



南山城村 山仲 昌子さん

初めてのことだが、山仲さんはこの欄に2度目の登場である。前回は「保健センターができたら」と夢を語ってくれた。その保健センターが5年前にJR「月ヶ瀬口」駅の近くにできた。超モダンな小学校、保育園の隣接地にある立派な保健福祉センターで、8年ぶりに出会った。

年間出生数16~17人という少子化の村で、孤立しがちな幼児や母親の交流に役立ってきた「ひよこ広場」は、センターができたことで月1.2回から毎週開けるようになった。会場となるセンターの広い機能訓練室に、毎回10組は母子が集まる。

「うれしいのは、お母さんの育児休暇が終わると、おばあちゃんと来はるのが多いんです。たまにはお父さんも来てくれるんですよ」

山仲さんの声が弾んでいた。同じ場所に小学校、保育園と高齢者のデイサービスセンターがあることで、幼老の交流もスムーズに行われているという。

8年前には村の保健師がようやく2人体制になったと喜んでいましたが、その後、結婚退職や家庭の事情による退職でまた1人に戻ってしまった。財政事情の厳しいなかで、無理はいえないのが現実だ。来年から特定健診・保健指導など仕事は増える。

「制度は変わりますが、住民の暮らしが変わるわけではありませんから、そう思ってやっていきます」

ベテランらしい落ち着きを見せる山仲さんだった。